

2019春季生活闘争

J R 連 合 F A X ニ ュ ー ス

No. 47

2019年 3月11日

日本鉄道労働組合連合会

J R 東海ユニオン第5回団体交渉

夏季手当の満額回答を強く主張

J R 東海ユニオンは3月4日、2019春季生活闘争の第5回団体交渉を行い、制度・政策要求と夏季手当について協議した。

交渉では、制度・政策要求のうち、60歳以降の処遇及び働き方の改善やハラスメント対策の強化、グループ会社・協力会社の労働条件向上や育児・介護支援制度の充実、「男女雇用機会均等法」「女性活躍推進法」の趣旨を踏まえた取り組みの推進や、職務乗車証のIC化・社員証との一体化について協議。その中で、職務乗車証のIC化について、会社から「現行の社員証との取替に合わせて、入館証とともに一体化させることを検討している」との考えを引き出した。また、夏季手当については、「将来宣言」の理念に則り、各種施策に実直に取り組む組合員の努力に報いるとともに一層の意欲向上を促すため、満額回答を強く主張した組合と、「予断を許さない経営環境や現在の賃金水準、公共性の高い鉄道業としての立場等を勘案すると、安定的支給のベースである2.7ヵ月に0.4ヵ月もの大幅な上乘せを実施することに対しては、慎重な判断をせざるを得ない」との従来主張に終始する会社とで主張が対立し、協議は平行線を辿った。

J R 東海ユニオンは、現場で働く組合員の切実な思いに応えるべく、最終回答にむけた団体交渉をさらに強化していくこととしている。